

イヌノフグリ *Veronica polita* Fr. var. *lilacina* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 9。全国的には帰化植物に圧迫されて著しく減少しているようだが、愛知県ではよく探せばあちこちに見られる。

【形態】

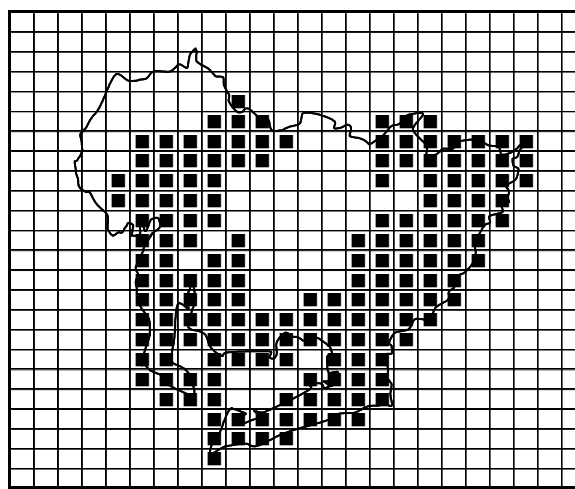
越年生草本。茎は下部で分枝し、地をはって広がり、長さ 10~25cm になる。葉は茎の下部では対生、上部では互生、有柄、葉身は卵円形で長さ幅ともに 4~11mm、辺縁には数対の先の鈍い鋸歯があり、両面に毛が散生する。花期は 3~4 月、花は茎の上部の葉腋に 1 個ずつつき、長い柄がある。花冠は淡紅白色で紅紫色の条があり、直径 3~4mm で 4 裂する。果実は蒴果で、中央がくびれ、上部両端は丸く、長さ 2.5~3mm、幅 4~5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 51267, 1994-5-7)、2 豊根 (小林 63646, 1998-4-26)、3 東栄 (小林 63317, 1998-3-14)、8 鳳来北東部 (芹沢 51292, 1989-4-29)、9 鳳来南部 (小林 56161, 1995-4-9)、11 作手 (小林 56002, 1995-3-19)、13 豊川 (小林 65666, 1999-2-28)、14 蒲郡 (小林 56024, 1995-3-26)、15 豊橋北部 (芹沢 91808, 2017-4-22)、16 豊橋南部 (小林 68419, 2000-3-19)、17 田原東部 (小林 71202, 2001-3-20)、18 田原西部 (小林 71312, 2001-3-31)。西：5 稲武 (小林 56536, 1995-5-3)、33 安城 (堀田喜久 6711, 1999-4-3)、34a 高浜 (渡辺幸子 4992, 2002-3-13)、34b 碧南 (畑佐武司 1084, 2000-3-19)、36 西尾南部 (壁谷重美子 128, 1994-4-5)。尾：37a 瀬戸 (村松正雄 23010, 2006-4-28)、41a 東海 (吉鶴靖則 651, 2015-4-9)、43 常滑 (鳥居ちゑ子 1903, 2001-4-1)、44b 南知多 (芹沢 82840, 2008-4-29)、50 名古屋北部 (鳥居ちゑ子 2262, 2003-3-28)、51 名古屋南東部 (芹沢 95171, 2019-5-18)、52 名古屋南西部 (花井隆晃 4515, 2010-3-28)。12 新城にもあるという (小林 2000)。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジアの温帯~暖帯に分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

道端や土手、石垣などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

一般的に山間部の集落の石垣などに生育していることが多いと認識されているが、愛知県では沿海部にもかなり多量に生育している場所がある。このような例は、調査が進めば全国各地で確認されるのか、それとも愛知県だけの特殊事情か、現時点ではよくわからない。もちろん、あちこちに見られるとは言っても、オオイヌノフグリやタチイヌノフグリに比べればはるかに少ない植物である。帰化系統が混在している可能性もある。

【保全上の留意点】

人里に生育している植物なので、土地の造成、石垣の改修など、存続を脅かす要因も多い。個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないが、本種が生育し続けることができるような落ち着いた集落環境の保全は是非とも必要なことである。貝塚に生育していることも多いので、史跡整備などの際には注意を要する。公園化など過度の攪乱を行えば、大型の外来種に席卷されることは確実である。

【特記事項】

植物体はオオイヌノフグリをやや小さくしたような形をしているが、花が小さく、淡紅色である。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.143. 愛知県, 名古屋

【関連文献】

保草本 I p.143, 平草本 III p.111, 平新版 5 p.84, 環境省 p.504, SOS 旧版 p.81.